

答え合わせ・解説

問1	答え 4 儒教	儒教は、孔子を祖とする中国の思想で、礼儀や孝行、そして君臣関係といった秩序を何よりも重んじます。聖徳太子が制定した十七条の憲法では、仏教を尊ぶ姿勢とともに、この儒教的な上下関係の秩序を取り入れることで、役人たちが天皇に仕えるべき規範を示しました。
問2	答え 4 木造建築	法隆寺の西院伽藍は、現存する世界最古の木造建築物群として有名です。木材の特性を生かした緻密な接合技術や、金堂・五重塔に見られる建築様式は、当時の高度な土木・建築技術を今に伝えています。
問3	答え 4 遣隋使	遣隋使は、小野妹子らによって何度か派遣されました。単なる交流だけでなく、隋の進んだ政治体制や文化、技術を取り入れることが大きな目的でした。当時の国交においては中国が中心となる朝貢的な関係が一般的でしたが、聖徳太子は「日出づる処の天子」という表現を用いることで、日本が対等な独立国であることを示そうとしました。
問4	答え 2 冠位十二階	603年に制定されました。役人に位を表す冠を与え、その色は徳・仁・礼・信・義・智の儒教的な道徳に基づく階層を示しました。これにより、有力豪族だけでなく、能力のある人物を政治に参加させる道が開かれました。
問5	答え 3 大宰府	大宰府は、九州地方（特に博多周辺）を管轄する行政機関です。軍事防衛だけでなく、外国との外交交渉を行う窓口としての役割も持ちました。周囲には「水城」という土木施設を築き、守りを固めたとされています。
問6	答え 1 律令制度	「律」は今の刑法、「令」は今の行政法にあたるもので、これらを組み合わせて国を治める体制を律令制度といいます。この制度により、中央政府が地方を支配し、すべての国民を戸籍で管理して税や労役を課するという中央集権的な国家体制が築かれました。
問7	答え 4 壬申の乱	672年に勃発したこの内乱は「壬申の乱」と呼ばれます。地方の豪族を味方につけた大海人皇子側が勝利し、大友皇子は敗北して自害しました。これは、当時の有力な皇族同士による最大規模の内乱となりました。
問8	答え 4 大海人皇子	大海人皇子は672年の壬申の乱において、地方豪族の協力を得て大友皇子を倒しました。この勝利により、古代日本において天皇の権威を確立する重要な役割を果たしました。
問9	答え 3 律令国家	律令国家とは、国の決まりである「律」と「令」に基づいて、天皇が全国を統治する国家の形です。都に政治の中心を置き、官僚が整備され、国民は公地公民（土地と人民は天皇のもの）という原則のもとで戸籍に登録されました。これにより、日本は法治主義的な性格を強めた国へと生まれ変わりました。
問10	答え 1 壬申の乱	672年に始まったこの争いは「壬申の乱」と呼ばれ、地方の豪族や兵を味方につけた大海人皇子が勝利しました。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、これまでの豪族中心の政治から、天皇に権力が集中する政治へと大きく転換しました。
問11	答え 4 法隆寺	法隆寺は、聖徳太子によって建立された日本最古級の寺院です。現存する金堂や五重塔などの建物は、世界で最も古い木造建築物群としてユネスコの世界文化遺産にも登録されています。当時の建築技術や仏教美術の粋を伝えており、飛鳥時代の高度な国際交流の様子を現代に伝えています。
問12	答え 1 白村江の戦い	663年、日本は百済の遺臣とともに大軍を派遣しましたが、白村江で唐と新羅の強大な連合軍に大敗を喫しました。この敗戦は、当時の日本にとって国際的な大きな転換点となりました。
問13	答え 1 渡来人	渡来人は、漢字や儒教、仏教などの学問のほか、機織り、金属加工、土木技術、須恵器の製作法など、高度な知識や技術を日本にもたらしました。彼らの技術は、大和政権の国づくりや、寺院の建設、都市計画に不可欠なものとなりました。
問14	答え 1 左右対称	釈迦三尊像に見られる「左右対称」の形は、当時の大陸の様式を忠実に受け継いだ証拠です。中心の仏像の両側に脇侍を配し、均整のとれた安定感のある姿を作ることで、仏の尊厳や穏やかさを表現しました。
問15	答え 3 聖徳太子	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を主導しました。官位十二階を定めて能力に応じた登用を促したほか、604年には十七条憲法を制定して役人の守るべき心得を示しました。これにより天皇への服従や、仏教・儒教の尊重を求めています。